

【(仮称)江戸川区立日光林間学校 各諸室等の要求水準】

【施設内】		
1	児童・生徒用客室 (40 室程度)	1. 児童・生徒利用の際、6～8人/部屋で宿泊できる広さとする。 2. 客室内で班活動やレクリエーションが実施できるような間取り・設えとする。 3. 施設を最大3校が同時利用する想定でいるが、男女の客室が入り混じらないよう配慮する。 4. 水回りは各室にトイレ・独立洗面を設置する。 5. 一般利用の際は3～4人程度の利用や、部活動などでの団体利用を想定している。
2	教員用客室 (12 室程度)	1. 教員が1部屋に2～4人程度宿泊することを想定した広さとする。 2. 室内の設えは一般的な旅館・ビジネスホテルの客室と同等とする。 3. 水回りは各室にトイレ・独立洗面を設置する。
3	屋内運動場	1. 屋内運動場は1室設け、2校が同時にレクリエーションできる広さを確保する。 2. ICT 機器や音響設備が使用できるよう環境を整備する。 3. 学校の屋内運動場と同様に、各種競技のコートラインや防球ネット、バスケットゴール、支柱受けなどを設置し、スポーツ競技が行える環境を整備する。 4. 卓球台や各種ボール、支柱、ネットなどが保管できる倉庫も併設する。 5. 学校の屋内運動場のような舞台は不要とする。
4	ホール	1. 1校最大240人が一堂に会することのできるスペースを確保する。 2. 施設の顔となる重要なスペースのため、明るく開放的な設えとする。合わせて地域の文化や歴史を取り入れた設えとすることが望ましい。 3. 雨天時かつ複数校利用の際に施設内でレクリエーション活動ができるよう配慮する。
5	下駄箱	1. 複数校が利用できるように広さの確保と動線に配慮する。 2. 館内の土足利用について検討し、清潔に保つことが可能であれば下駄箱等は不要とする。
6	食堂	1. 300人程度が一堂に会することのできる広さを確保する。 2. 2～3校が同時に利用できるよう、入り口やパーティションなど、音や動線に配慮できることが望ましい。 3. 効率よく配膳・下膳ができるような仕組みを検討する。 4. アレルギーや宗教食など、個別対応食の受け渡しができるカウンターを設置する。
7	厨房	1. 厨房は最大300食程度が調理できる設備を整備する。 2. ドライシステムを基本とし、汚染エリアと非汚染エリアに区画分けすることが望ましい。 3. 作業の流れに配慮し、検収室、下処理室、調理室、配膳室、洗浄室の配置に注意し、食品庫は検収室と調理室を独立して行き来できるように、物品庫は検収室に隣接するように配置する。 4. 衛生面に配慮し、調理師用の休憩室、更衣室、トイレを同区画に配置する。 5. 食品の納入用荷捌スペースと駐車場を確保する。 6. ゴミや廃油などを一時保管する倉庫を整備する。また、グリストラップは清掃しやすいよう配置や深さなどについても配慮する。

8	図書スペース	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日光の歴史や自然。観光スポット等を調べることのできるスペースを配置する。 2. 児童・生徒のレクリエーションや、教員の打合せ、一般利用時の団樂の場などに利用することも想定している。
9	大浴場	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男女の浴室を1室ずつ整備し、一度に30人程度が浴室に入ることを想定した広さを確保する。 2. 維持補修・改修などのしやすさに十分配慮する。 3. バリアフリーに配慮し、極力段差は設けない。
10	大浴場 脱衣場	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男女の脱衣場を1室ずつ整備し、一度に30人程度が更衣できることを想定した広さと60人分程度の棚を整備する。 2. 脱衣場内にトイレや独立洗面を整備する。 3. 湿気が多い部屋となるため、換気などの対策に配慮する。 4. 維持補修・改修などのしやすさに十分配慮する。 5. バリアフリーに配慮し、廊下からの出入りや浴室への出入りに極力段差は設けない。
11	小浴場	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男女の浴室を1室ずつ整備し、教員が一度に2～3人程度入れることを想定した広さを確保する。 2. 浴室は手すりの設置や段差を作らないなど、バリアフリーに配慮する。 3. 環境に配慮し、省エネ給湯システムの整備を検討する。 4. 維持補修・改修などのしやすさに十分配慮する。 5. 一般利用時は家族や障がい者等が利用することを想定した設えとする。
12	小浴場 脱衣場	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男女の脱衣場を1室ずつ整備し、一度に2～3人程度が更衣できることを想定した広さと5名程度の棚を整備する。 2. 脱衣場内に独立洗面を整備する。 3. 湿気が多い部屋となるため、換気などの対策に配慮する。 4. 維持補修・改修などのしやすさに十分配慮する。 5. バリアフリーに配慮し、廊下からの出入りや浴室への出入りに極力段差は設けない。
13	共同洗面所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・生徒用客室や食堂、屋内運動場から近い所に配置する。 2. 児童・生徒用客室には独立洗面があるため、補助的な利用ができるような数の洗面を確保する。
14	共同トイレ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホールや児童・生徒用客室、教員用客室、食堂、屋内運動場から近い所に配置する。 2. 特に児童・生徒用客室付近は多数が利用することを想定した便器数を確保する。 3. 各室からの動線に配慮する。 4. 各階にバリアフリースイレを設置する。 5. 床の仕様は乾式とし、男女どちらかに掃除用シンクを設ける。
15	乾燥室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 300人程度の物品が収納できる広さを確保する。 2. 用途としては、春夏秋はハイキングなどで濡れた物品、冬はスキー用具などの乾燥のために利用することを想定している。 3. 環境に配慮し、ボイラーなどの熱源を利用できることが望ましい。
16	保健室 (2室)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急な体調不良やケガなどに対応できるよう、物品は薬品や器具、ベッドなど、保健室と同様のものを入れることを想定している。 2. 屋外からでもすぐに入れるように配置することが望ましい。
17	会議室 (2室)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員10名程度が打合せできる広さとする。 2. 合宿や研修での利用なども想定し、ICT設備を整えること。
18	事務室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林間学校運営にあたり、運営者が事務作業のできる部屋を確保する。 2. 受付など様々な業務と兼任することを想定した配置する。

		3. 部屋は6名程度の机と資料や物品が置ける広さとする。 4. 館内（屋外）放送ができる設備を配置する。
19	従業員打合せ室	1. 事務員や清掃員などのスタッフが打合せ・休憩できる部屋を事務室に併設する。入口は事務室側と廊下側の両方に設けることとする。 2. 10人程度が入れる広さとする。
20	倉庫等	1. 運営しやすいよう各階に適宜倉庫を設ける。 2. 児童・生徒用客室や教員用客室付近にはリネン庫を設ける。 3. 様々な災害時の避難施設となることを想定し、防災備蓄倉庫を設ける。

【外構】		
21	駐車場	1. 大型バス8台程度の駐車場を確保する。 2. 一般利用時のことも考え、乗用車の駐車場も確保する。
22	野外活動場	1. 300人程度が飯盒炊飯(バーベキュー)を行うことのできる場を設ける。 なお、雨の多い地域であることから、天候に関わらず実施できることが望ましい。 2. 拓けた平地部分(グラウンド)ではキャンプファイヤーを行うことを想定している。 3. 平地部分(グラウンド)はスポーツ利用等もできるような舗装とし、焚火台は移動式にするなどして汎用性を持たせる。 4. 森林部分(敷地南側)は様々な自然体験の場とし、クラフト制作などが可能な施設を設ける。
23	その他	1. 野外活動場と宿泊施設にある程度の距離があるため、野外トイレ等の水回りを別途設ける。 2. 森林部分については、児童・生徒が感性を磨くことのできるような活用方法を検討する。 3. 敷地内には大きな高低差があるため、バリアフリーに配慮しスロープ等の設置を検討する。

【設備】		
24	照明設備	1. 省エネルギー性能とメンテナンスに配慮する。 2. 特に交換困難な高所などの器具は可能な限り避ける。
25	空調設備	1. 各室に冷暖房設備と十分な換気設備を整備する。 2. 改修等を行う際も運営できるよう配慮する。 3. 有事の際、必要最低限利用者を保護できる機能としての空調設備も検討する。
26	ICT設備	1. 児童・生徒に貸与されているタブレット端末が様々な場所で利用できるようWi-Fiを完備する。
27	放送設備	1. 学校利用時や緊急時などに配慮し、全館放送ならびに屋外放送設備を事務室内に設置する。
28	発電設備	1. 環境にやさしく経済性を伴った施設を目指しているため、太陽光パネル等の設置を検討する。 2. 有事の際、必要最低限利用者を保護できる機能としての発電設備や蓄電設備も検討する。
29	ボイラー設備	1. ガス給湯やヒートポンプ給湯、電気給湯などの給湯器とも比較検討を行い、より環境やランニングコストに良いものを設置する。
30	バリアフリー設備	1. 車いすで施設内外の往来・利用ができるよう配慮する。 2. バリアフリーに配慮し、エレベーターを設置する。

